

## 平成 26 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会議事要旨

日 時 平成 27 年 2 月 10 日（火）午後 3 時 30 分～午後 4 時 30 分

会 場 門真市役所本館 2 階 大会議室

出席者 柴田委員長・松宮副委員長・西村委員・藤井委員・上甲委員・牧菌委員  
（並松委員欠席）

事務局 生涯学習部 山田次長・上田課長補佐・清水主任  
学校教育部 大川副参事

### 1. 委員紹介

<事務局>それでは、ただいまから平成 26 年度第 2 回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を開催いたします。

まず本日、並松委員の欠席をお伺いしております。また、松宮委員が少し遅れておりますが、委員 7 名中 5 名が出席していただいておりますので、本委員会が成立していることをご報告いたします。

つぎに、お配りの資料の確認をさせていただきます。今回は、冊子 2 部にまとめさせていただきました。

最初に、第 2 回推進委員会議事次第が表紙となった冊子です。3 ページ目に資料 2、プレゼンテーションコンテスト応募者数です。4 ページ目に資料 3、これまでいただいた事業評価シートです。8 ページ目に資料 4 プレゼンテーションコンテスト改善点です。9 ページ目に資料 5、第 4 回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテスト進行（案）です。

もう一つは、黄色表紙資料 1 の第 3 回門真市中学生海外派遣研修報告、です。

お手元がないものがございましたら、ご連絡いただきますようお願いいたします。

よろしいでしょうか？

ないようでしたら、これからの進行を柴田委員長にお願いします。

柴田委員長よろしくお願いたします。

### 2. 事業経過報告について

<柴田委員長> それでは、案件 1 事業経過報告に入りたいと思います。

今年度事業、第 3 回門真市中学生海外派遣研修、それからこれまでの振り返りにについて、事務局から説明をお願いします。

<事務局>それでは、ご説明申し上げます。黄色の冊子、第 3 回門真市中学生海外派遣研修報告 8 ページ目からご覧ください。

第 3 回門真市中学生海外派遣研修は、昨年平成 26 年 8 月 2 日（土曜日）から 11 日（月曜日）の 10 日間、第 3 回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストにおいて、最優秀賞と優秀賞を獲った 9 名と引率職員 2 名、そして添乗員 1 名が同行して、これまで同様オーストラリア、アデレード市に行きました。研修先は、チャールズ・キャンベル・カレッジ校です。現地学校生活体験プログラムを中心に、課外活動、市内見学など短い期間にたくさんの経験を盛り込んだものになっておりました。

海外派遣研修後、帰国後交流会ならびに同窓会を 8 月 30 日（土曜日）に開催しました。同窓会では、海外派遣研修生の研修参加以降の意識動向・現状を確認することや OB の海外派遣研修後の取組、考え方を後輩研修生が聴き、話し合うことで相互に将来の指針にすることを狙いに、「将来について」を題名に、将来を考える上で大事な事、大切にしたいことについて意見や思いを出しあってもらいました。その意見を、内面的要素と技術的要素に振り分けた模造紙に張り出して、自分を考える時間を作り、グループごとで発表してもらいました。

次に、事業の振り返りにあたり、三つの資料の説明を用意させていただきました。まず、議事次第の冊子、3 ページ資料 2 をご覧ください。第 1 回プレゼンテーションコンテストからの応募者数を表しております。応募者数は、第 1 回が 191 人、第 2 回が 367 人、第 3 回が 386 人そして、今回 377 人と推移してきております。

4 ページ目の資料 3 は、今までにいただきました事業評価シートです。最後に 8 ページ目の資料 5 をご覧ください。プレゼンテーションコンテストの改善点についてです。

総括しますと、まず応募者数は、今回昨年を少し下回りました。未だ、応募数が少ない中学校があることから、これからも中学校に根気よく働きかけていき、本事業への理解者を増

やし、応募数増加へつなげていくようにすることが課題となっております。また、近隣の私立中学校にも応募協力を依頼したにもかかわらず応募がなかったことも課題の一つです。こちらにも根気よく依頼を働きかけていくことが必要かと考えております。

コンテスト当日来場者増加への働きかけとしては、これまで中学生のみを対象としたコンテスト開催案内を市内小学校5年生、6年生全クラスにポスターを掲載していただくように依頼し、また発表者の名簿も同封して卒業生の発表が分かるようにしました。

それ以外には、今週の12日木曜日15時から守口・門真をネットワークとするFMハナコ番組内において、第3回海外派遣研修生が出演し、コンテスト告知をいたします。

また、応募者のレベルアップを目的に二次審査前に面接審査の事前研修を初めて実施し、コンテスト前にも昨年より1回増やした4回実施いたします。

以上、第3回海外派遣研修と事業の振り返りについてのご報告を終わります。

<柴田委員長>ありがとうございます。事業経過報告と事業の振り返り、何かご意見をお願いいたします。

<西村委員>参加者数が減っている中学校がありますが、校内で選抜するなど、何かあったのでしょうか。

<事務局>今回は、夏休みの宿題を通して、応募せず、希望者のみの応募と伺っております。

<西村委員>応募の少ない中学校がありますがこれについてはどうでしょう。

<事務局>学校に赴き、参加協力をお願いしておりますが、課題がある状態です。

<柴田委員長>小学生、中学生の会場来場者が増える働きかけについて教えてください。

<事務局>現在作成中のパンフレットをこれまで配らなかった市内小学校4年生～6年生の全クラスに各1部、市内小学校に5部ずつ配ります。これは、卒業したときの先生方子どもたちを連れて参加していただくことを狙いにしております。開催チラシの配付は、これまでの小学校5年生からを1学年さげて、小学校4年生から中学2年生までの市内全児童・生徒に配るようにします。

<柴田委員長>応募者の少ない中学校が年々より少なくなっています。特別な働きかけをしていますか。

<事務局>先ほども申し上げましたが、直接学校へ赴き、他の中学校の状況もお伝えしながら、宿題などでの応募協力をお願いをしているところです。今後も根気よく協力依頼をしていかななくてはならないと考えております。

<柴田委員長>違う形でなにか提案してみてもどうでしょう。少しでもよいので増えていくような形が残せるような働きかけの検討をお願いします。

<藤井委員>一概に宿題などで、多く応募されればよいというものでもないと思います。応募の少ない中学校の現状が保護者の方に伝わっているのでしょうか。例えば、PTA協議会などを通じて現状を示す事などをして、それが学校側により影響を与えるような事も考えてよいのではないのでしょうか。

<西村委員>応募者数が増えて、門真市全体で盛り上がってほしいですね。それと、もう一点、発表者の友だちや仲間がくれば、あこがれやパワーになると思います。中1や中2の生徒さんがいっぱい会場に来られるような仕掛けを考えてほしいですね。

<事務局>現在、事前研修に英語の先生方が協力してくれています。その先生方に生徒さんと呼んでいただくように声かけをしたいと思います。

<西村委員>また、この他市に例を見ない、すばらしい取り組みを大阪府や他の市町村へ広報するべきだと思います。

<柴田委員長>来年は区切りの第5回を迎えますので、ひろくこの内容が広まるようなマスコミなどを使った、広報活動にももうひと工夫してほしいことを提案させていただきます。

## 2. 第4回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて

<柴田委員長>

続きまして、案件2、「第4回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストについて」に入ります。事務局説明をお願いします。

<事務局>

第4回門真市中学生英語プレゼンテーションコンテストの進捗状況についてご説明いたし

ます。

さきほどもご説明しましたが、昨年7月はじめから9月末まで受け付けましたコンテスト応募数は、377名となり、一次審査通過者は、本委員会でのご意見を踏まえて、昨年の31名より17名増やして、48名とし、また二次審査前に48名を対象に事前研修を実施しました。二次審査には47名が参加し、18名の本選通過者を決定しました。コンテストには17名が出場いたします。

事前研修は、関西外国語大学生のご協力のもと、発表者のレベルアップを目的として、昨年より1回増やして、4回実施いたします。これまでに、1月17日（土曜日）、31日（土曜日）、2月7日（土曜日）に実施しました。この後、コンテスト直前の21日（土曜日）にリハーサル練習を行い、22日の本番に臨みます。

コンテストは、2月22日（日曜日）13時より門真市民文化会館ルミエールホール小ホールにて実施いたします。

審査委員長は、松宮副委員長にお願いし、西村委員には質問者をお願いいたします。昨年質問者をお願いしておりましたが、Jung先生が今回お仕事の都合上、出席できないということで、他のネイティブの先生を松宮副委員長にご推薦いただきますようお願いしております。

昨年のコンテストと大きく変わるところは、コンテスト発表状況を海外派遣研修の派遣先である、チャールズ・キャンベル・カレッジ校とインターネット回線を通じて見ていただき、講評をいただくところにあります。この試みによって、海外派遣研修先側に本市事業を理解していただき、これまで以上につながりを深める効果があると考えております。

具体的には、開会式終了後コンテストが始まる前に、舞台奥のスクリーンにチャールズ・キャンベル・カレッジ校を映し出し、松宮副委員長と現地オーストラリアと会話をさせていただきます。プレゼンテーション発表中は、オーストラリア側の映像は映さず、こちらの発表者の映像だけをオーストラリアに送ることといたします。コンテスト終了後再び、松宮副委員長に登場していただき、チャールズ・キャンベル・カレッジ校から講評をいただいてスカイプ交流は終了いたします。

このほか、審査集計時間の中に、第3回海外派遣研修生2名に海外派遣研修の報告と門真子ども英会話講座「KEIK」の子どもたちに英語の歌をお願いしております。

審査方法は、昨年と同様にしてありますが、質問は、2人の質問者が交互に1問ずつお願いいたします。

また、表彰の発表順については、奨励賞の生徒への配慮から優秀賞・奨励賞の発表順を学校順とします。

当日会場来場者に配るパンフレットは、昨年よりページ数を4ページ増やし、会場に来られた方に少しでも発表内容が理解できるように、キーワード（英語、カタカナ、日本語訳）と評価基準を載せます。この評価基準の説明については、司会から説明を付け加えます。また、コンテストの経緯を表にあらわし、舞台に立つすべての発表者がよりすぐられた17人であることを表現するようにしております。

以上で説明を終わります。

<柴田委員長>スカイプ交流については、後で松宮副委員長からご説明をいただくということで、それ以外で何かご意見はありませんでしょうか。

前回の推進委員会でも意見として出ていましたが、会場の方にコンテストの主旨を説明するところがありますか。

<事務局>司会から丁寧に行う予定です。

<柴田委員長>発表者は、17名ではなく、18名ではないですか。

<事務局>二次審査は18名通過しましたが、1名の辞退者が出て、本選には17名が発表いたします。

<西村委員>発表後の質問は、質問者、私ともう1人のネイティブの方が1問ずつするということですか。

<事務局>はい。

<柴田委員長>西村委員にお伺いしたいのですが、質問の対応は、日本語でもかまわないのですか。

<西村委員>対応力を見るところなので、かまいません。

<柴田委員長>事前に発表者へ日本語で対応する事も可能であることを伝えておく必要がありますね。

<西村委員>こちらもわからなければ、質問を噛み砕いて聞くようにします。それと、私も質問を交互にすることはよいことだと思います。例えば、私がファーストクエッションとして1問質問をして、もう1人がセカンドクエッションとして質問をするような…。

<柴田委員長>パンフレットは、4ページから8ページにすると伺いましたが、どのように変えるのでしょうか。

<事務局>発表者のコメント部分を増やしています。また、昨年会場に来られた方から「英語の部分がもう少しわかるようにならないか」とご意見をいただいていたので、それぞれの発表のキーワードを英語、その読み方、日本語訳を記載し、少しでも会場に来られた方が発表内容を理解できる配慮をいたします。

<柴田委員長>応募の少ない中学校にも当日の映像、DVDを渡すだけでなく、いろいろな人に観ていただく事が必要なので、そのセールスをしてほしいです。

<事務局>コンテストのDVDを渡すだけでなく、いろいろな場面でコンテストが見ていただけるような、働きかけをしていきたいと思います。

<柴田委員長>そうですね。コンテストを知らずに出られなかった生徒がいると悲しいですし、(DVDを)観ることで会場にいけなかった生徒の中から参加意欲がでてくるかもしれませんので、周知のほどよろしくお願いします。

<藤井委員>コンテスト終了後の集合写真は必要でしょうか。優秀賞にもれた子どもは泣きかけていたりして、辛いところがあります。賞の落差が大きいので、もう少し配慮をしても良いのではないのでしょうか。

もし、必要であるなら発表前に撮影する方法などはどうでしょう。

<西村委員>いまのご意見に関係して、コンテスト終了直後の海外派遣研修に関する説明は必要でしょうか。その説明のために海外派遣研修に行くチームと行かないチームに分けるのは酷のような気がしますので、配慮が必要だと思います。

<柴田委員長>感受性の強い時期の子どもたちなので、今いただいたご意見を参考に衝撃を和らげる工夫をもう一度検討して下さい。

<西村委員>スカイプをやることは、素晴らしい事だと思います。さらに門真市のコンテストがバージョンアップすると思います。

<柴田委員長>この試みは素晴らしいと思います。ただこのことをどのように知っていただくかも大切です。

<西村委員>チラシに「オーストラリアとのやりとりもあるよ」なども載せて去年と今年は違うよとアピールしてはどうでしょうか。

<柴田委員長>「広報かどま」に頼らず、先ほど藤井委員からもありましたがPTAや子ども会などにも働きかけるようにしてはどうでしょう。

(16:15 松宮副委員長出席)

<柴田委員長>早速で申し訳ありませんが、スカイプについてご説明をお願いします。

<松宮副委員長>スカイプ交流は、会場に臨場感を与え、子どもたちのモチベーションも上がり、そして会場に来られている保護者の方にもオーストラリアを身近に感じてもらう事を狙いとしてインターネットを通じてオーストラリアの交流校、チャールズ・キャンベル・カレッジ校と回線を繋ごうと調整をしておりました。

オーストラリアから来たメールの内容を紹介します。結果としては、スカイプは可能ということですが、残然ながらスカイプ当日は、日曜日で子どもたちを集めるのは難しいので、交流の担当の先生と直接繋いで対応するという事です。当日は、オープニングの時に会場とオーストラリアがつながっているという事と担当の先生の方から中学生とその保護者に対する短いメッセージをいただく流れでやっていきたいと考えております。この推進委員会で承認をいただければ、向こうとのやり取りをコンテストの中に組み入れて生きたいと考えております。

<柴田委員長>今、松宮副委員長からご提案を頂きましたが、いかがでしょうか

<推進委員>異議なし

<松宮風委員長>残念ながら、学生を呼びたかったのですが、昨年末、南オーストラリア州の法律が改正されまして、学校などの施設に入るには「無犯罪証明書」が必要になり、こちらの開かれた学校というような形で入ることが出来なくなりました。そのような、向こうの事情も配慮しながら進めて行きたいと考えております。今後、土曜日、日曜日に学生・生徒の参加は難しいだろうと思います。ただ、事前研修を行う土曜日ならば、向こうのホームステイ先のファミリーや子どもを呼んで会話する事は可能です。

<柴田委員長>子どもたちもプレゼンテーション当日にオーストラリアとやり取りがされるということであれば、やる気も一層上がるのではないのでしょうか。研修などの中でやり取りをすることは可能とかがえてよろしいのでしょうか。

<松宮副委員長>はい。可能だと思います。

<柴田委員長>国際交流という面で、オーストラリアの方から日本語でメッセージをいただいて、交流するというのは可能でしょうか。

<松宮副委員長>日本語使うチャンスだと思いますので、十分可能だと思います。

<柴田委員長>現在「KEIK」の時間の部分を上手く活用して、来年度に向けて検討してください。

<松宮副委員長>スカイプ交流は、海外派遣研修に選拔されなかった生徒のことも考えると、その場で交流する機会を持つという大切な意義があります。

<柴田委員長>何かスカイプについてご意見はないのでしょうか。

<松宮副委員長>先日、会場となりますルミエールホールで電波の状況を確認させて頂き、まず大丈夫だろうと判断いたしました。

しかし、日本及びオーストラリアのネットワークの状況によって繋がらない可能性が有ります。繋がらない可能性もあることを推進委員の皆様にもご了解いただきたいです。また、万一の場合のために、スカイプを楽しみにしているというオーストラリア側の紹介を司会の方から説明していただきたいです。

<柴田委員長>

その他何かご意見はありませんでしょうか。

それでは、事務局は、2月22日（日曜日）は、今日委員の皆さまからいただいたご意見を考慮して、コンテストを進行してください。

以上で本日の案件は終了しました。事務局から連絡をお願いします。

<事務局説明>

それでは、3点ご連絡いたします。

まず、めざせ世界へはばたけ事業の平成26年度事業評価についてです。コンテスト終了後、松宮副委員長、西村委員、には事業評価シートをお送りいたしますので、平成26年度の事業評価をお願いします。

つぎに海外派遣研修の決定については、3月25日の第1回門真市議会定例会の議決をもって確定となります。確定後は、海外派遣候補生に連絡し、参加意思の確認をいたします。その後、平成27年度4月下旬に保護者説明会を実施し、海外派遣研修のための事前研修を実施していく予定です。

最後に平成27年度の第1回門真市めざせ世界へはばたけ推進委員会は、6月ごろに実施したいと考えております。来年度の推進委員会の実施日は、改めて、委員の皆さまに、調整させていただきますので、ご協力のほど宜しくお願い致します。

詳しい内容につきましては、改めてご連絡いたします。

以上です。

<柴田委員長>

以上をもちまして、平成26年度第2回門真市めざせ世界へはばたけ事業推進委員会を終わらせて頂きます。本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。ありがとうございました。